

ポスター発表 5			
主題	利用者のインフルエンザ発症をゼロにした取組み		
副題	冬場の外出制限による効果		
キーワード1	外出・外泊禁止	キーワード2	家族の声
研究期間	12 ヶ月		
法人名	社会福祉法人 たま紫水会		
事業所名	特別養護老人ホーム みたか紫水園		
発表者：	高橋雅之	アドバイザー：	なし
共同研究者：翁長雪、渡部早乃、			
電 話	0422-40-7201	F A X	0422-40-7205
今回発表の 事業所や サービスの 紹介	三鷹市にある全室個室のユニット型特養。平成 22 年 5 月開設。定員 120 名。 目指す介護＝H.E.R. Hospitality：親切で暖かい介護サービス、 Expertise： 医療面の充実でターミナルケアにもしっかりと対応、 Relief：ご利用者、ご家 族の安心、満足。		

《1. 研究前の状況と課題》

【状況】

インフルエンザやノロウィルスの予防対策。
H25 年度までの取り組み。

① 利用者・職員のほぼ全員にインフルエンザ予防接種実施。

② 玄関にアルコールと次亜塩素酸の両消毒液を設置（通年）。

③ 毎年 12 月～翌年 2 月までは、

- ・両消毒液の他にマスクとうがい用コップを設置。
- ・外出企画を中止。受診や家族より希望があった場合のみ実施。
- ・利用者に発症者が出た場合、当該フロアは面会を 2 週間中止。

【課題】

- ・インフルエンザ発症者
H23 年度…8 名、H25 年度…2 名
H24 年度…4 名
- ・ノロウィルスは、開設以来発症者無し。
H25 年 1/22 に感染症マニュアルを作成

した事により感染拡大が防止できた。

しかし、このマニュアルは発症後の対策がメインであり、拡大を防止する事はできても、発症そのものは防げなかった。

通常のケアに加えて感染拡大防止のケアをする事によってケアの量が増え、職員の体力的・精神的な疲労も増していった。

面会が中止になると、毎日食事介助に来ていた家族の協力が得られなくなる。また、2 週間面会できない事に対する不満が募り、施設に苦情を申し出る家族もいた。

発症者が出るたびに、このような事が常に課題となっていた。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

1 年を通して、発症者を一人も出さないという事に重点を置く。発症者が出なければ、前述のような課題も起こらない。また、家族との関係も円満に推移する。

また、「今季は一人も発症者を出さなかった。」という施設の自信に繋がる事を期待し

て、H26 年度はさらなる感染症対策に取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

H26 年度の取り組み

- ① 利用者・職員のほぼ全員にインフルエンザ予防接種実施。←前年と同様。
- ② 玄関にアルコールと次亜塩素酸の両消毒液を設置（通年）。←前年と同様。
- ③ 12 月～翌年 2 月までは、
 - ・両消毒液の他にマスクとうがい用コップを設置。←前年と同様。

変更点は以下より

- ・受診以外は家族希望の有無に関わらず。全面的に外出・外泊禁止。
12/24～1/10 までは外出・外泊を可能とした。
- ・施設内で家族が大勢集まっていたの会食禁止。
- ・利用者に発症者がした場合、当該フロアだけでなく、全フロア 2 週間面会中止。

《4. 取り組みの結果》

H26 年度は、インフルエンザ、ノロウィルスともに発症者 0 名。

外出・外泊件数（12 月～翌年 2 月までの件数、受診者除く）は、H25 年度が外出 27 件、外泊 20 件だったのに対し、H26 年度は、外出 11 件、外泊 10 件であった。

家族からの声

- ・外出、外泊が出来ない期間が長い。
- ・正月なのにおせち料理も持参できない。
※おせち料理を持ち込めない代わりに、
外食をするという本末転倒になったケースもあり。

《5. 考察、まとめ》

12 月～翌年 2 月までの 3 か月間の外出・外泊件数が H25 年度と H26 年度を比べると半数以下に減少した事。また H26 年度は 12/24～1/10 までと制限した事で、その短期間だけは特に気を付けようとする意識が職員に芽生えた事が発症者をゼロにできた理由であると考察する。

しかし、外出する事によって利用者の精神的ケアを図る事は、発症者をゼロに抑える事と同じくらい重要であると考察する。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、写真を掲載する事については、ご本人（ご家族）に口頭で確認をし、本研究発表以外では使用しない事、それにより不利益を被ることはない事を説明し、回答をもって同意を得た事とした。

《7. 参考文献》

著者名

東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課

タイトル

高齢者施設における感染症対策 ～ノロウィルス、インフルエンザの事例を中心に～
（H26 年 11/11 開催の研修資料）

《8. 提案と発信》

発症者をゼロに抑えるという施設側の思いと、外出で気分転換を図りたいという家族の思いは、どちらも重要である事は言うまでも無い。

外出・外泊を禁止にするのではなく、あくまでも推奨はしないというスタンスに切り替える。それでも外出したいという事であれば、今まで以上の細かいルールを設けるなどし、施設と家族のそれぞれの思いが両立できるような取り組みをしていきたい。